

2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

2022年11月10日
株式会社加藤製作所



I. 2023年3月期 第2四半期 連結決算概要

1. 連結業績サマリー	P.2
2. 連結業績推移	P.3-P.4
3. 連結損益計算書	P.5
4. 営業損益の増減分析	P.6
5. 連結貸借対照表	P.7
6. 連結キャッシュ・フロー計算書	P.8
7. 連結主要品目別売上高推移	P.9-P.12
8. 連結仕向地別売上高推移	P.13

II. 2023年3月期 通期連結業績予想

1. 2023年3月期 通期連結業績予想	P.14
----------------------	------

III. TOPICS

P.15-P.16

連結業績サマリー



- 当第2四半期連結累計期間の売上高は、26,171百万円（前年同期比△15.5%）と前期を下回るも、損益については大幅に改善し、黒字に転換

	前期実績 (2022年3月期 第2四半期)		当期実績 (2023年3月期 第2四半期)	(単位：百万円) 前年同期比 () 内は増減率
売上高	30,959	➡	26,171	△4,787 (△15.5%)
営業 損益	△1,033	➡	301	+1,334
経常 損益	△932	➡	999	+1,932
親会社株主 に帰属する 当期純利益	△988	➡	953	+1,941

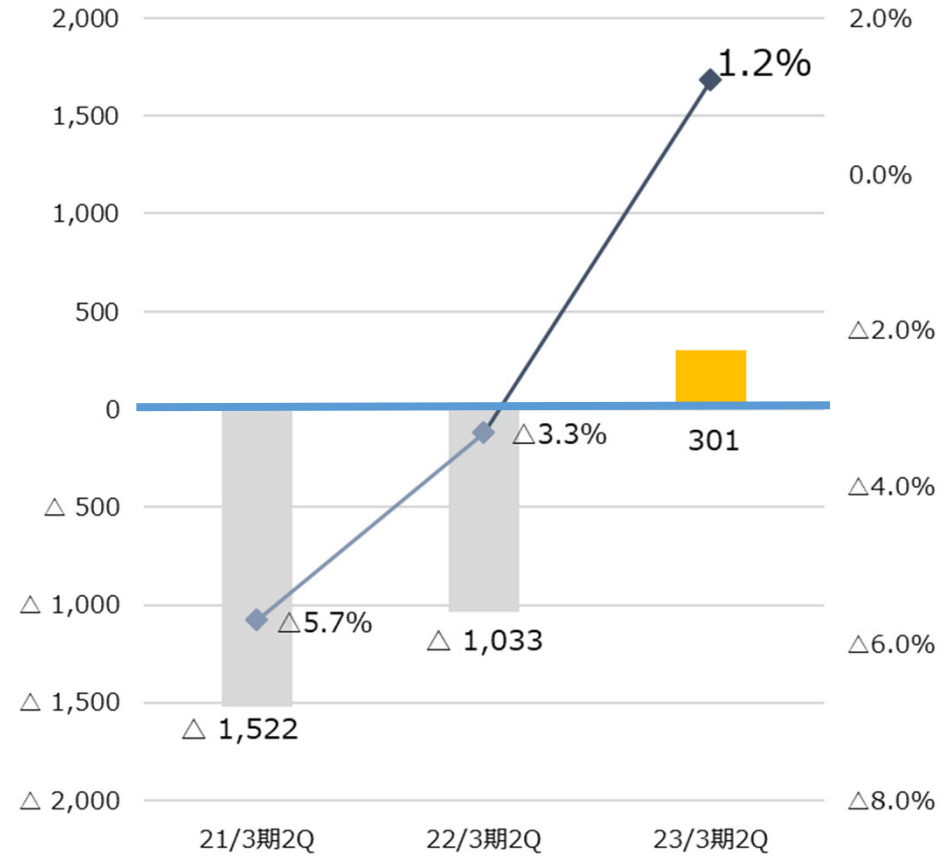
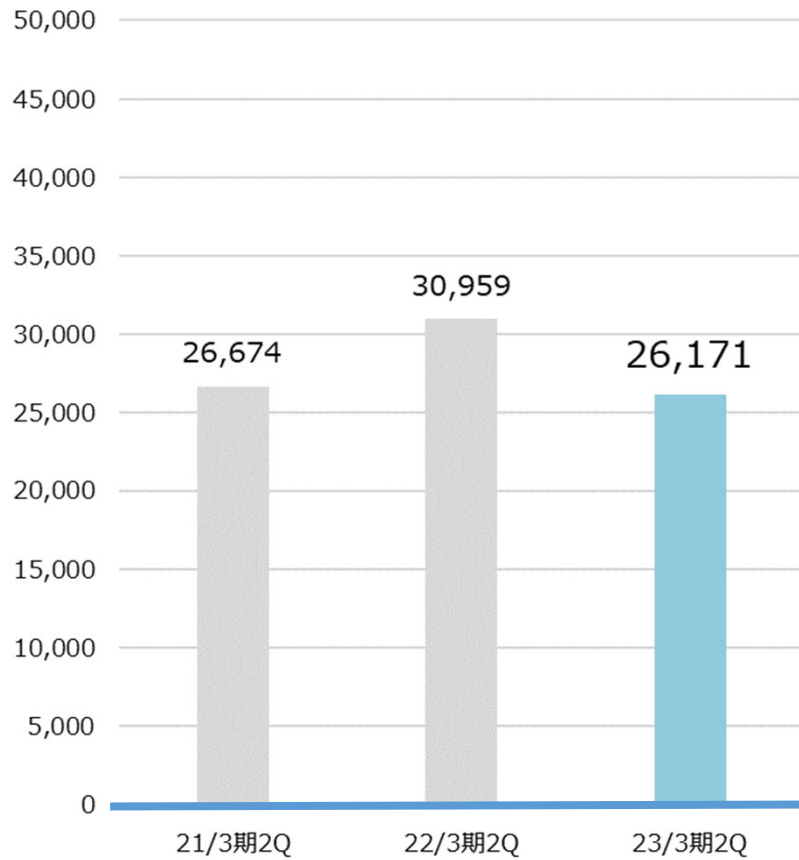
連結業績推移



(単位：百万円)

売上高

営業利益・営業利益率



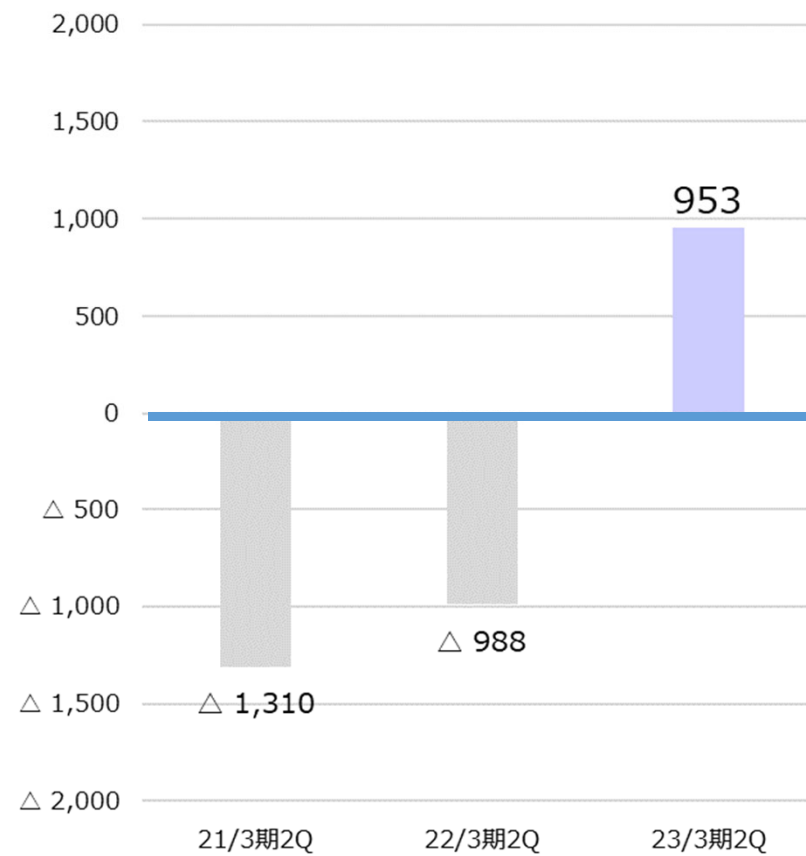
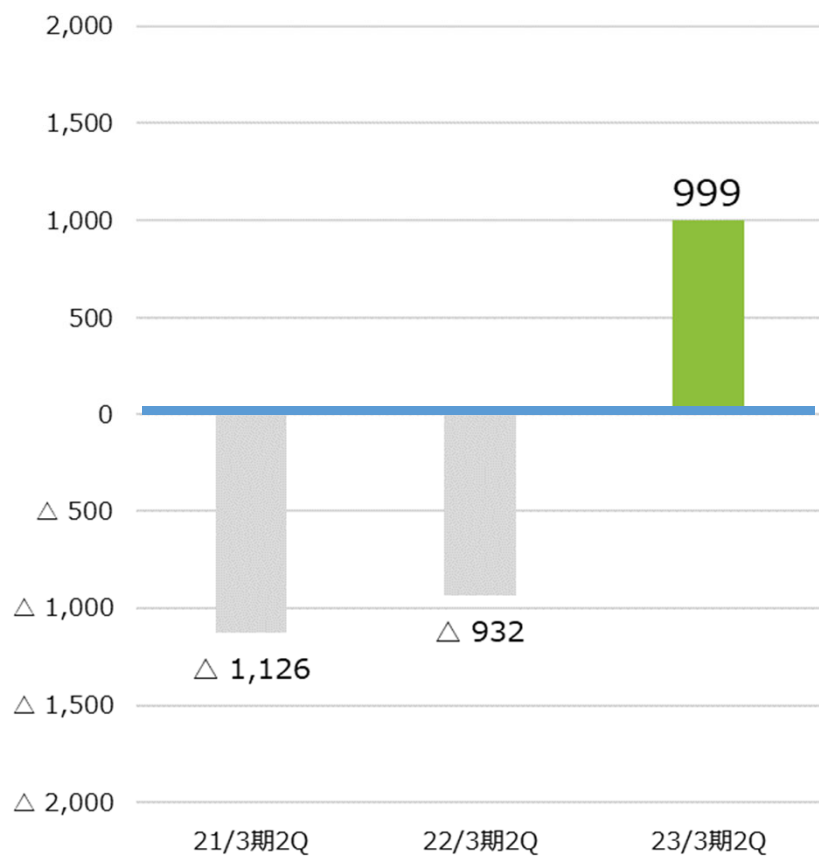
連結業績推移



(単位：百万円)

経常利益

親会社株主当期純利益



連結損益計算書



(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	30,959	100.0%	26,171	100.0%	△ 4,787	△15.5%
売上原価	27,235	88.0%	22,061	84.3%	△ 5,173	△19.0%
売上総利益	3,724	12.0%	4,109	15.7%	385	10.4%
販管費	4,757	15.4%	3,808	14.6%	△ 949	△19.9%
営業利益	△ 1,033	△3.3%	301	1.2%	1,334	-
営業外損益	100	0.3%	698	2.7%	597	593.6%
経常利益	△ 932	△3.0%	999	3.8%	1,932	-
特別損益	15	0.0%	0	0.0%	△ 15	△100.0%
税前利益	△ 917	△3.0%	999	3.8%	1,917	-
法人税等	46	0.1%	53	0.2%	7	15.2%
非支配株主当期純利益	24	0.1%	△ 6	0.0%	△ 31	-
親会社株主当期純利益	△ 988	△3.2%	953	3.6%	1,941	-

➤ 売上原価率の改善

製造コストの削減と販売価格の見直し等による収益性の改善
88.0% → 84.3% (▲3.7ポイント)

➤ 営業外損益の増加

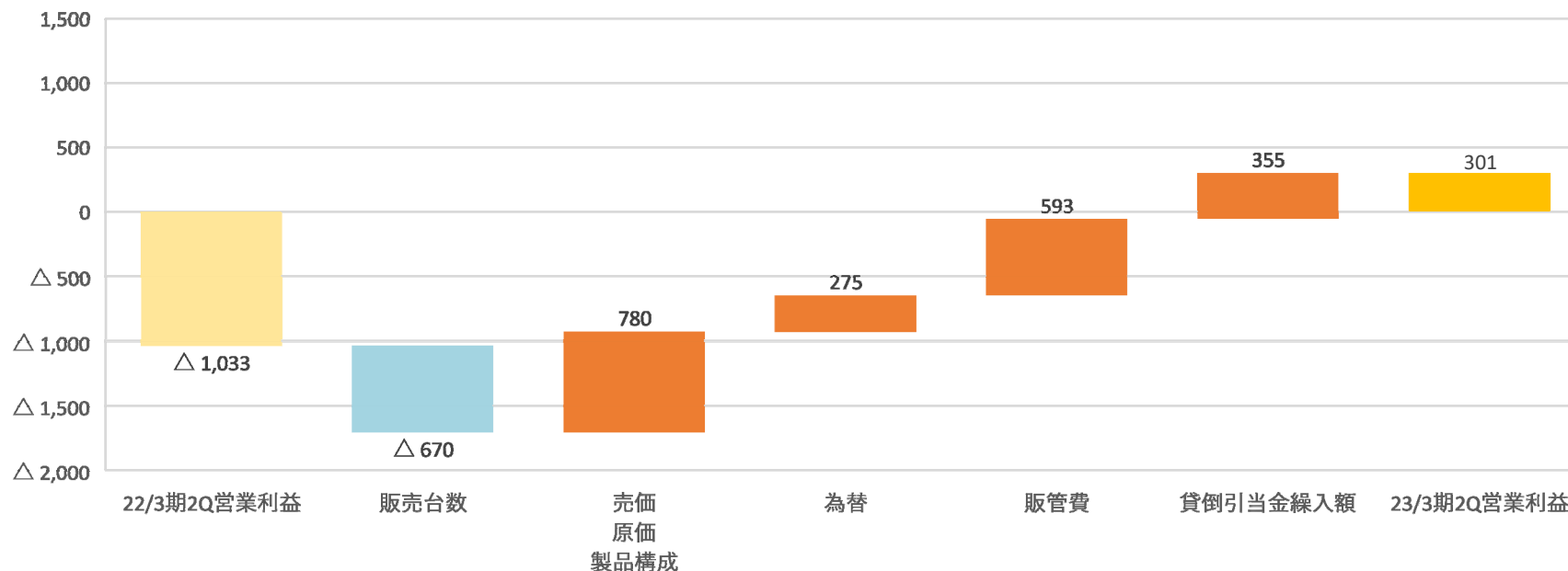
円安による為替差益などにより増加
100百万円 → 698百万円

➤ 販管費比率の減少

事業構造改革の取組みにより、販管費比率が15.4%から
14.6%に減少

営業損益の増減分析

(単位：百万円)



▶ 営業損益増減要因

- ・販売台数の減少により
- ・売価/原価/製品構成の変動により
- ・為替の変動により
- ・販管費の減少により
- ・貸倒引当金繰入額の減少により

△670百万円
780百万円
275百万円
593百万円
355百万円



1,334百万円

連結貸借対照表



(単位：百万円)

		2022年3月期		2023年3月期 第2四半期		前期末比	
		金額	比率	金額	比率	増減額	
資産 の 部	流動 資産	手許資金	18,669	18.2%	19,628	19.0%	959
		売上債権	28,340	27.6%	25,545	24.8%	△ 2,794
		棚卸資産	32,070	31.2%	34,774	33.7%	2,704
		その他	△ 1,662	△1.6%	△ 1,506	△1.5%	156
		流動資産合計	77,417	75.4%	78,442	76.0%	1,025
	固定 資産	有形固定資産	21,185	20.6%	20,648	20.0%	△ 536
		無形固定資産	399	0.4%	407	0.4%	7
		投資その他の資産	3,643	3.5%	3,707	3.6%	63
		固定資産合計	25,228	24.6%	24,763	24.0%	△ 465
	資産合計		102,645	100.0%	103,206	100.0%	560
負債・ 純 資産 の 部	負債	仕入債務	13,159	12.8%	15,349	14.9%	2,189
		有利子負債	40,230	39.2%	37,918	36.7%	△ 2,311
		その他	5,010	4.9%	3,933	3.8%	△ 1,077
		負債合計	58,400	56.9%	57,201	55.4%	△ 1,198
	純 資産	利益剰余金	28,495	27.8%	29,340	28.4%	844
		評価換算差額等	4,640	4.5%	5,420	5.3%	780
		その他	11,109	10.8%	11,243	10.9%	133
		純資産合計	44,245	43.1%	46,004	44.6%	1,759
	負債・純資産合計		102,645	100.0%	103,206	100.0%	560

▶ 売上債権の減少

28,340百万円 → 25,545百万円

※ 売上減により売上債権回転期間は悪化
 (22/3月期 : 162.8日
 23/3月期2Q : 178.1日)

▶ 棚卸資産の増加

32,070百万円 → 34,774百万円

※ 売上減により棚卸資産回転期間は悪化
 (22/3月期 : 184.1日
 23/3月期2Q : 242.5日)

▶ 有利子負債の減少

40,230百万円 → 37,918百万円

※ 長期借入金の一部返済により減少

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

		2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	△ 917	999
	減価償却費	959	806
	売上債権増減額	2,277	3,730
	棚卸資産増減額	3,088	△ 2,097
	仕入債務増減額	1,884	1,858
	その他	207	△ 1,531
	営業キャッシュフロー計	7,499	3,765
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 907	△ 85
	その他	180	66
	投資キャッシュフロー計	△ 727	△ 19
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	△ 1,994	△ 2,825
	その他	△ 221	△ 143
	財務キャッシュフロー計	△ 2,215	△ 2,969
増減額	換算差額	148	182
	増減額計	4,704	959
	現金及び現金同等物の期首残高	14,614	18,669
	新規連結に伴う 現金及び現金同等物の増加額	-	-
	現金及び現金同等物の期末残高	19,319	19,628

➤ **営業CFの減少**
主として棚卸資産の増加

➤ **財務CFの減少**
主として長期借入金の返済

連結主要品目別売上高推移



(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	14,192	53.2%	14,074	45.5%	14,275	54.5%	201	1.4%
海外売上高	1,776	6.7%	3,212	10.4%	1,772	6.8%	△1,439	△44.8%
計	15,969	59.9%	17,286	55.8%	16,047	61.3%	△1,238	△7.2%
油圧ショベル等								
国内売上高	5,024	18.8%	6,241	20.2%	4,168	15.9%	△2,072	△33.2%
海外売上高	5,273	19.8%	6,955	22.5%	5,432	20.8%	△1,523	△21.9%
計	10,298	38.6%	13,196	42.6%	9,600	36.7%	△3,595	△27.2%
その他								
国内売上高	406	1.5%	474	1.5%	522	2.0%	47	10.0%
海外売上高	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	△33.3%
計	406	1.5%	475	1.5%	523	2.0%	47	9.9%
合計								
国内売上高合計	19,623	73.6%	20,790	67.2%	18,966	72.5%	△1,823	△8.8%
海外売上高合計	7,050	26.4%	10,168	32.8%	7,205	27.5%	△2,963	△29.1%
計	26,674	100.0%	30,959	100.0%	26,171	100.0%	△4,787	△15.5%

➤ 建設用クレーン

国内：需要は回復基調かつ受注残は大幅にあるものの、
部品の供給不足により売上高が微増

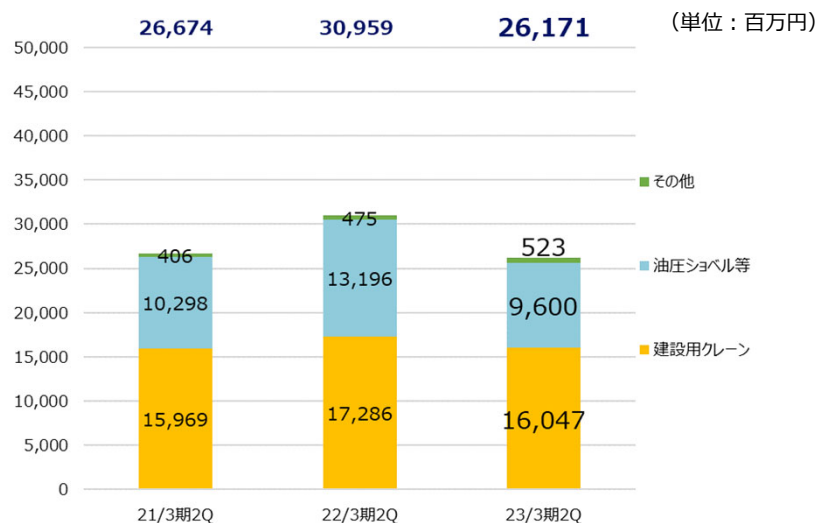
海外：サプライチェーンの混乱の影響により売上高が減少

➤ 油圧ショベル等

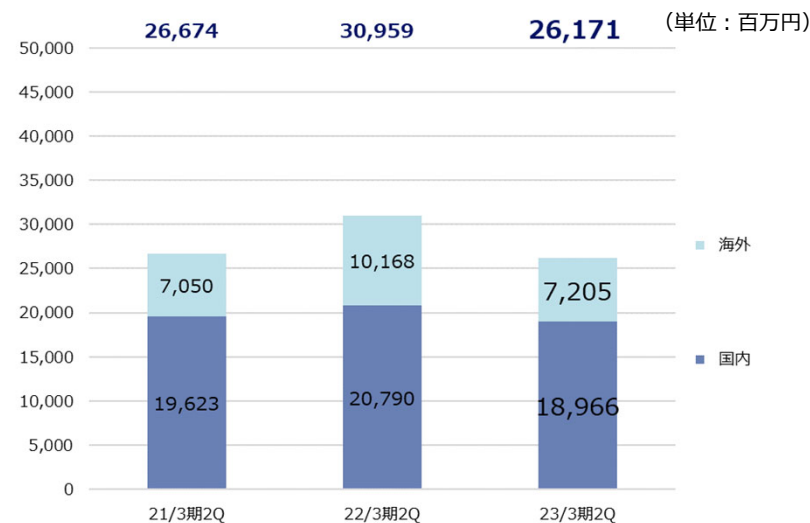
国内：サプライチェーンの混乱の影響により売上高が減少

海外：北米・欧州においては、需要旺盛により受注状況は
順調なもの、サプライチェーンの混乱により売上高が
減少

主要品目別売上高推移



国内外売上高推移



連結主要品目別売上高推移（建設用クレーン）



【主要製品紹介】

ラフテレーンクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- 不整地走破性と小回り性に優れたクレーン
- 国内向け（4.9t～80t 7機種）
- 国外向け（13t～70t 8機種）



オールテレーンクレーン

- 走行用とクレーン操作でそれぞれ独立した運転室を持つ
- 高速走行性と不整地走破性を兼ね備えたクレーン
- 国内向け（110t～400t 5機種）
- 国外向け（130t～300t 2機種）



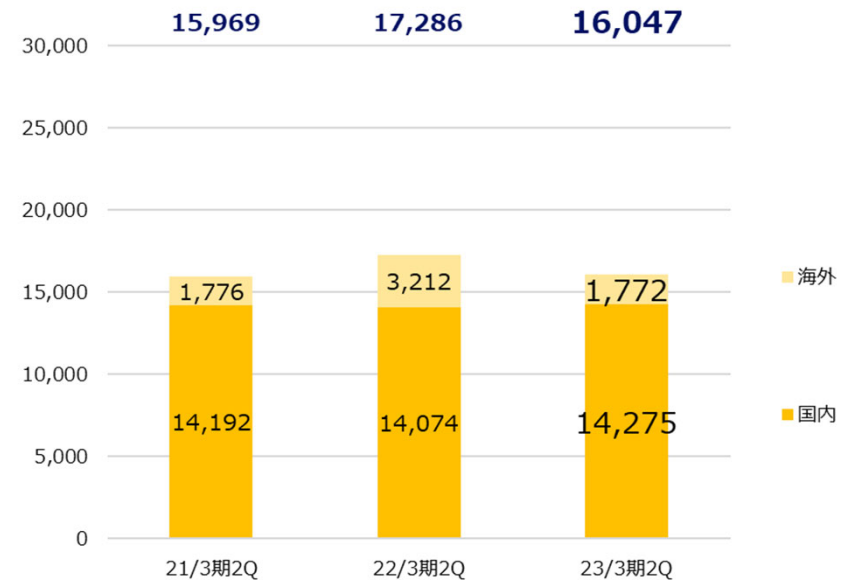
クローラクレーン

- ラチスブームは組み合わせにより多様な現場に対応可能
- テレスコブームはブーム伸縮により早いセットアップが可能
- 国内向け（50t～200t 6機種）
- 国外向け（55t～300t 7機種）



（単位：百万円）

売上高推移



➤ 国内

→ 国内営業力強化により、オールテレーンクレーンや中大型ラフテレーンクレーンの販売が増加し、前年同期比+1.4%

➤ 海外

→ アジア（台湾・タイ）で大幅に減少したことにより、前年同期比△44.8%

連結主要品目別売上高推移（油圧ショベル等）



【主要製品紹介】

油圧ショベル

- ・ クローラ式走行部を有する掘削機械
- ・ 不特定の場所を自走できる
- ・ 頑丈で操作性が良い
- ・ 国内向け（8t～50t 7機種）
- ・ 国外向け（8t～38t 12機種）



ミニショベル

- ・ 小型の油圧ショベル
- ・ 小回りが効くため、多様な現場で活用可能
- ・ 国内向け（0.9t～8t 15機種）
- ・ 国外向け（0.9t～13t 22機種）



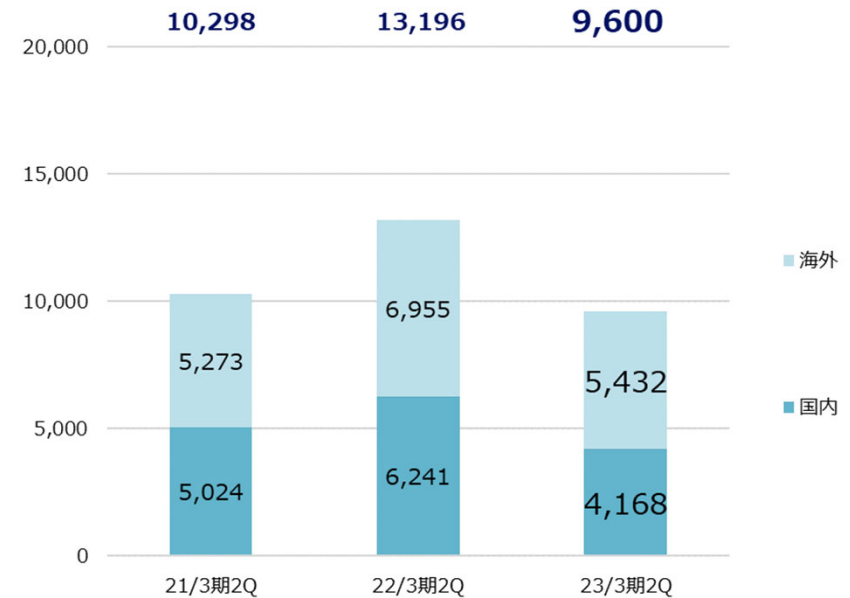
クローラキャリア

- ・ 不特定の場所を自走できる運搬機械
- ・ 作業効率が良く多様な現場で活用可能
- ・ 国内向け（3.7t～11t 6機種）
- ・ 国外向け（3.7t～11t 4機種）



（単位：百万円）

売上高推移



➤ 国内

→ サプライチェーンの混乱の影響により売上高が減少し、前年同期比△33.2%

➤ 海外

→ 北米・欧州は堅調に推移したものの、中国市場の需要低下により売上高が減少し、前年同期比△21.9%

連結主要品目別売上高推移（その他）



進化の奥の更なる真価へ

【主要製品紹介】

路面清掃車

- 高い清掃能力とコンパクト化を両立
- 人に優しい低騒音・高効率スイーパ
- 国内向け（2機種）
- 国外向け（個別対応）



万能吸引車

- 汚泥から粉粒体まで、多様な吸引車
- 小型から大型まで多機種を取り揃えた多彩なラインナップ
- 国内向け（9機種）
- 国外向け（個別対応）



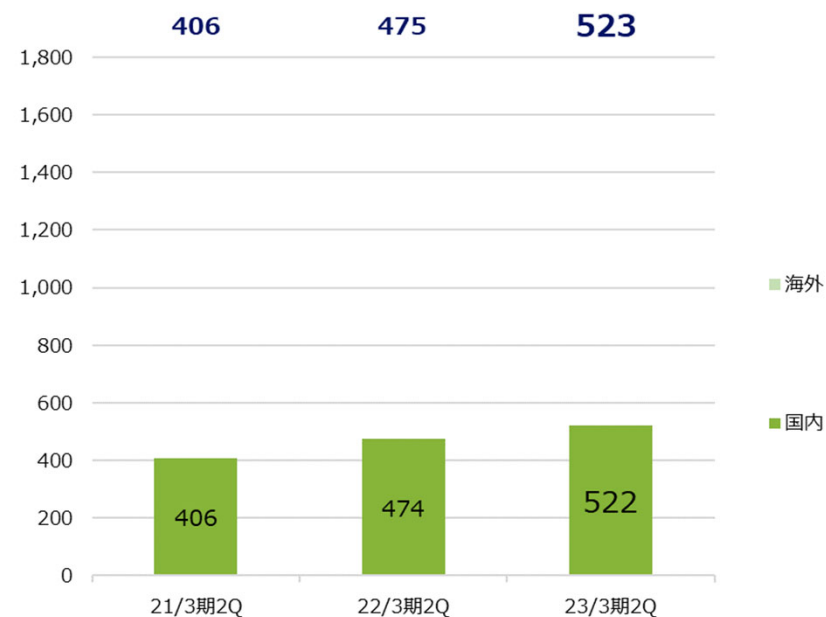
スノースイーパー

- 強力なブラシ＆ブロー式を採用
- スピーディで効率の良い除雪作業を実現
- 国内向け（5機種）
- 国外向け（個別対応）



売上高推移

（単位：百万円）



➤ 売上高の増加

→ 国内の売上高が増加し前年同期比 + 9.9%

連結仕向地別売上高推移（日本除く）



(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		前年同期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	4,747	67.3%	5,719	56.2%	2,314	32.1%	△ 3,405	△59.5%	8.8%
中近東	13	0.2%	103	1.0%	219	3.1%	116	111.7%	0.8%
欧州	1,499	21.3%	2,413	23.7%	2,368	32.9%	△ 45	△1.9%	9.0%
オセアニア	52	0.7%	480	4.7%	427	5.9%	△ 52	△11.0%	1.6%
アフリカ	14	0.2%	96	0.9%	31	0.4%	△ 64	△67.1%	0.1%
北米・中南米	723	10.3%	1,354	13.3%	1,842	25.6%	488	36.0%	7.0%
海外売上高合計	7,050	100.0%	10,168	100.0%	7,205	100.0%	△ 2,963	△29.1%	27.5%

(単位：百万円)

▶ アジア（前年同期比△59.5%）

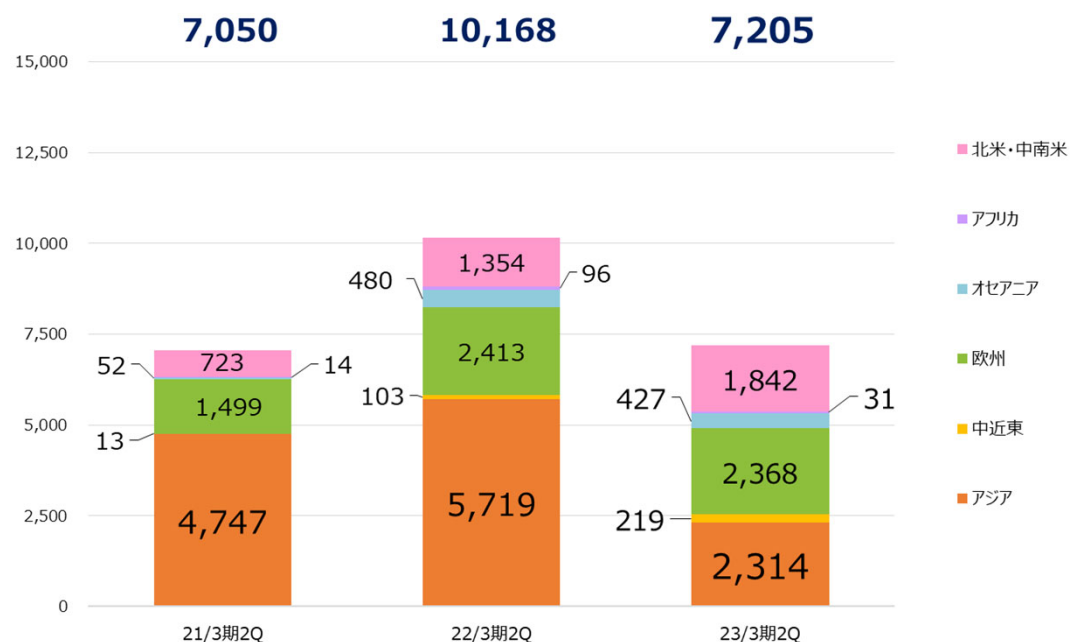
中国市場の需要低下が継続し減少
5,719百万円 → 2,314百万円

▶ 欧州（前年同期比△1.9%）

受注状況は堅調に推移したが、サプライチェーンの
混乱の影響により減少
2,413百万円 → 2,368百万円

▶ 北米・中南米（前年同期比36.0%）

米州市場の活況により増加
1,354百万円 → 1,842百万円



2023年3月期 通期連結業績予想



◆連結業績予想

第3四半期以降もサプライチェーンの混乱に伴う部品不足や中国市場における建設需要の低下は当面継続することが見込まれるため、2022年11月10日に2023年3月期通期連結業績予想の修正を以下の内容で公表いたしました。引き続き厳しい事業環境は続きますが、各種施策を推進し業績回復に努めてまいります。

(単位：百万円)

	2022年3月期実績	2022年3月期 (一過性要因除く)	2023年3月期 (当初計画)	2023年3月期 (11/10修正)
売上高	63,549	63,549	64,100	60,500
売上原価率	89.6%	87.8%	85.4%	86.8%
営業利益	▲7,222	▲967	1,300	100
営業利益率	▲11.4%	▲1.5%	2.0%	0.2%
経常利益	▲6,929	▲674	1,000	400
親会社株主帰属 当期利益	▲9,575	226	600	1,000
棚卸資産	32,070	32,070	31,000	33,470

◆株主還元

配当金については当初計画から変更はございません

		2022年3月期	2023年3月期 (予想)
1株当たり 配当金	中間	0.00円	0.00円
	期末	10.00円	10.00円
	年間	10.00円	10.00円

▶ ラフテレーンクレーン SR-250Rf II 新発売

業界NO.1の安全性と環境に優しい25t吊りラフターが登場

～2022年6月より～

- ✓ 好評のEJIBを採用
装着・格納作業が、早い・安全・省スペースで2段ジブの空中振り出しも可能
- ✓ 環境にやさしい平成26年ディーゼル特殊自動車排出ガス規制適合エンジン搭載
また、低騒音型建設機械の指定を取得予定
- ✓ 乗用車やトラックでは一般的となりつつある
坂道発進補助装置を業界に先駆けて新規設定
- ✓ 選べる3つの仕様を新規設定
お客様のニーズに合わせた安全性能を提供



➤クローラーキャリア IC75-5 IC100-5 新発売

～2022年6月より～

- ✓ 特定特殊自動車排出ガス2014年基準に適合したエンジンを搭載 低燃費を実現
- ✓ キャリア初となるテレマティクスを搭載 ✓ 荷台浮き走行防止機能を搭載
- ✓ 電子制御方向走行操作システムを採用し、状況に応じた効率的な走行動作が可能
- ✓ 新型ROPS(転倒時保護構造)キャブを搭載
- ✓ 過積載予防計量機能の標準搭載により、過積載を未然に予防
- ✓ 輸送性を考えた本体寸法と低重心化により高い走行安定度を実現

IC75-5



IC100-5



本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社加藤製作所
IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail:ir-kato@kato-works.co.jp